第４６回退職組合員を祝う会

言いたいことを言い、やれることをやり、真面目に楽しくご苦労様でした

4月29日(土)、第46回永年勤続退職組合員を祝う会が、前橋シティーホールで開催されました。感謝状と記念品の贈呈後、約2時間の祝宴は退職にあたってのあいさつでピークを迎え、みなさんから熱いメッセージを頂戴しました。学校では県教委や管理職からの管理体制が強まる中、苦労も多かったと思います。支部や専門部・組合行事等で結ばれた固い絆で、退職まで信念を曲げずに組合を支えていただいたことに改めて敬意を表すると共に、これからのますますのご活躍を祈念しています。

群馬高教月報

前橋市大手町
3-1-10
群馬高教組
027-231-2784
ghtu@educas.jp
http://www.ghtu.org/

春山　宜紀さん（前東）

前東の前の渋女に戻った形で、四年振りに非常勤講師として五コマやっています。戻ってみたら、半分はまだ知っている人で、教え子が教員になっていたり、事務長さんは自分が渋女のバレー部でみていた子のお母さんで、人間関係ってほんとに色んなところでこうやってできているんだなぁと感じています。

採用試験で「校長と意見が違ったりしたらどうしますか」と聞かれ、「学校の責任者は校長ですから当然校長先生の言うことを聞きます」と白々しく言ってとりあえず採用になりました。初めは藤岡高校で、針谷さんと真砂さんが強烈でした。その後は伊勢崎興陽と渋高で鏑木さんと会い、その後渋女、前東と短期間の異動で終わりを迎えました。早期退職の理由としては、母親の介護がどんどん重くなっていて、今は朝と夕方世話をしているという生活です。

最後は本部に入りまして、澁谷委員長をはじめ交渉の時に色んな人の熱い思いを聞いて「自分もやってよかったなぁ、もっとやることいっぱいあるなぁ」と感じた三年間でした。退職後もずーっと組合のことは頭にあるので、渋川に行ってすぐ八重樫さんと林さんと三人で支部のLINEをつくりました。村上さんもいらっしゃるので、だんだん広げて、いろいろお手伝いするというかできることをやっていこうと考えています。

田口　有理さん（清陵）

非常勤で週10時間やっています。三日間は健大高崎、一日は高専に行っています。健大は待遇が良くて、まず机があるのがすごく嬉しかったです。一コマの時給は三千円、一年間で月割りになるので、給料が出ない月というのがないんですね、ボーナスも出るということです。ただ、人手不足で非常勤の先生が非常に多く、私立も回しているんだなぁということがわかりました。非常勤にしたのは、母が今一人暮らしをしていて、時間的に余裕があった方がいいなということと、もうフルタイムはちょっと難しいと自分で思っちゃったんですね。授業に集中できるという点では非常勤というのは形として私には合っているのかなという風に思っています。

自分が人間として育っていく中で、組合員であったことというのは非常に大きかったと思っています。怒られないようにしなきゃって小さい時から思っていて、そういう風に教員だった母に躾けられた。でも、それはおかしいって言える風にしなきゃいけないっていう気持ちもすごくあり、それをしっかり考えろよという場が組合だったんだろうというふうに思っています。

清陵ではみんなが署名に応じてくれ、36協定の署名もきちんと残っていて、職場要請も管理職と毎年やっていて、そういう経験が、自分なりに言うことを聞きがちな、巻き込めなさそうなところを組合がブレーキをかけてくれた、そういうことだったのかなと今では思っています。三十数年間教員として組合員だったことが自分をつくってきたというのは本当に言えることだし、感謝しております。

西山　晃弘さん（利根実）

教員を目指した理由は、自分が教員になって化学をしっかりと教えたいという、ちょっと大それた思いがありました。

渋工に赴任して九年目で、決まった転勤先が一夜にしてひっくり返ったということがありました。気持ちを切り替えるのに一年かかりましたが、一年後友人が大学で助手をやっていて理科の研究材料を送ってくれ、分析も全部やってくれて、一緒に研究発表しようというような、寄り添って一緒にすすめてくれて勢多農で頑張れました。39歳の時青年海外協力隊に応募し、ネパールで本当に教えることだけに集中できる二年間を過ごさせてもらい、帰ってきました。そのあと同じ勢多農へ戻って、一年やって、目指せスペシャリストというクラスの担任をしてくれないかという話がきて、三年間、卒業させるまでいさせてくださいと約束した上で引き受けました。部活もガラッと変えて生徒が好きなことをやらせようと、生徒たちのバイタリティというか、そのすごさに私も引きずられて、三年後に学生科学賞で日本一になれました。本当に感謝したのと、教員になってよかったという思いもしたところです。初めて頭のなかが真っ白になるという経験をしたのもその時です。人間の力というのは偏差値ではなくて、本人がやりたいという気持ちがすべてなんだなというのを感じました。その後は中之条に行って進路指導主事もしましたが、なんかもう嫌なんですね。（生徒の力を）測ってどうするの、それは結果であって、その先十分活かしているとは思えないので、教え込んだところでどういう意味があるんだろうかというのを自問自答しながら過ごしてきています。

管理職からは「入らないでね」と言われていましたが「入ってみないとわからないですから」と言って組合に入りました。実際に入ってみて、見る視点がかなり変わったなと。入ってなかったらどうなっていたんだろうと。人や社会や色んなこと、多様なものを色々な価値観で見るということはできない人生になっていたのかと思うと、ちょっとゾッとするようなことを思います。

澁谷　正晴さん（前高特）

三年間前高特にいまして、定年を機に安総定時制に転勤になりました。前高特では、二年生の担任をやっていまして、持ち上げたところで辞めようかなと思っていたんですけれど、安総に行ってまた一年生の担任になりまして、やっぱりこの子たちを卒業させるまではやりたい気持ちが出てきました。

初任の中之条で、坂田さんと最初に出会ったのが図書館。コンピュータの前に座って一生懸命プログラミングしていて、そこには司書の福田さん。私は五年間いたんですけれども、ずーっと入り浸って、朝一に行くのが図書館という、そういう生活をしていました。赴任した九月に吾妻四校の新任が集められて、半年経つと組合に入れるが、入っちゃダメだという飲み会をやったんですよね。すでに組合に入っていた方がその場で罵倒された時は本当にビビりましたが、だんだんわかってきたことは、やっぱり自分に近いのは組合の方々だったということで、一年半経ったところで組合に入りました。島崎さんや清水さん、新井さんや三枝さんもいて本当に中之条の五年間は楽しかったです。高工に移って一年半くらい経った頃、予算不足で冬になってもストーブがつかないということがあって、新聞で文句を書いたら校長室に呼ばれて「これを書いたのはお前だということはわかってる、なんでこんなことを書くんだ」と言われました。しばらく経って、「お前は電子科の科風に合わないから、一年の担任を降りろ」と教頭に言われた時には、50代の先生方が怒ってくれて、学年主任や電子科の科長も支えてくれて、自分がちゃんと力を持つようになったら、そういうことができるようになれればなと思っていました。八年間高工にいて、その後高経附に行きましたが、私には合わないところで、ちょっと勉強ができないとか、ちょっと毛色の違った子たちをどんどん排除していくようなところがありました。学年主任をやっていた時には校長面談で「澁谷さんがそういうことだから、あの学年はこんなになるんだ」という言い方をされたんですが、私は自分の学年が悪いとは全く思っていなくて、本当にショックでした。そういう思いを「教育のつどい」を通じて船橋さんや坂田さんに聞いてもらい、本当に助けられ、自分は間違っていないという気持ちを持てたことでずっとみなさんに、先輩方に支えられて来たんですよね。

最後の二年間は委員長をやりましたけれども、はっきり言って私の人間性には全然そぐわない役職でした。お世話になった恩返しのつもりで、まぁとりあえず終わったので、本当にほっとしているところです。この後はですね、車やバイクが好きでバイクが二台あるので、色んな所を旅していきたいなと、そんなところです。ありがとうございました。

多賀谷　弘孝さん（清明）

今の気持ちは、まさかこんな日が来るとはという感じですね。一つは組合に貼ってある退職者を祝う会の写真で花をつけて座っている先生が私の目標としてきた先生方だったり、この会に青年部として出た時に非常に感動的な話をされた先生方の写真をずっと見てきたので、まさか自分がこういう場で花をつける側になるとは、こんな日が来るなんてというそんな感じです。もう一つは、私が退職する時に組合が存在しているかなというような思いがあって、幸いにもというか、現職の先生方の力で今日を祝ってもらって本当に嬉しいというのが二つ目のまさかこんな日がというようなことです。

高校生の時に叔父に連れられて高校教職員スキー大会に出て大回転で優勝し、高教月報に私が載ったことがありました。高校の教員になるとスキーができるんだと、それが高校の教員を目指した原動力になりました。叔父からは、教員になる時に「お前も教員になるんだから、自分の思ったことはきちんとやらなきゃだめだよ」という話をされたのを覚えていて、採用試験の時にはやっぱり、職員会議の決定と校長の判断が違ったらどうしますかと聞かれ、当然私もそれは校長先生の判断に従いますということで合格しまして、館林高校に赴任しました。最初の職員会議では「入学式の日の丸掲揚」で賛否をとりました。反対の方に目をつぶって手を挙げましたが、何日かして組合員の先生から「あなた勇気があるね。新任のなかで、手を挙げていたのは、組合員は別としてあなただけだったよ」と言われて、そんなことかなぁなんて思いました。高校時代に校長が職員会議の決定を無視というか強行して、日の丸君が代をやった時に世界史の先生が授業中に「私は誰になんと言われても君が代は歌いません。私のこっちの耳は聞こえません。それは軍隊で上官に殴られたからです」というお話をされたんですね。それがすごく自分の心の中に響いていて、すごいな、いまだに思うんですけれど、そういう人がいる限りそういうのを強行するのはよくないだろうという思いもあって、反対の方に手を挙げたという次第です。

組合は人のつながりだろうと思っています。館林でお世話になった高橋先生のつながりで船橋先生にも会えたし、いろんなところでいろんな先生に会って、それが自分の人生をこういうふうにつくってきたかなという思いがあります。

今は清明高校再任用で、給料は下がっても仕事は増えており、退職した実感はありません。放送専門部の事務局長をやっていて、来年度に群馬で関東大会があるので、そこまでは何とかやって、そしたら自分の中での退職をしていきたいなとそんなふうに今思っているところです。

春山　貴子さん（前女）

田口さんと前女の時に同じクラスで、在学中アメリカに留学して別々になりました。結婚してからぷらぷらしていたんですが、高専で非常勤をやっていた時に「あ、病休がないんだ」と悟りました。これは正式に採用試験を受けた方がいいのかもしれないと思い、男女共修の流れで家庭科の教員をめざしたのですが、自信がなくて日和っちゃったんですね。で、めでたく受かりまして、榛名高校に赴任しました。

榛名高校では堀込さんが産休に入るまでお隣ですごい良くしていただいて。真砂さんは強烈で校長と胸倉をつかみあって喧嘩をしていてすごくびっくりしました。大変な学校だったんだけれど、生徒のことを話題にしていて、他の学年で大変な生徒とか、そういう子のことも良く知っていて、職員が支え合い助け合うというのはすごくあったなというふうに思います。

その後、吾妻高校へ行って五年勤め、沼女に九年いました。組合にも入って女性部で平田さんや堀込さん、田口さんや村上さんとも知り合いになれて、他校の様子も色々と聞けて、すごく勉強になりました。その後前女に来てもう九年目ですが、担任を一周したあとに一年休んで、一年休んだ最後三月に校長に呼ばれ「窓際族か、生徒指導主事」と言われたんです。運営委員会メンバーで女性は私の前任の生徒指導主事一人だけだったので、私が断ると、運営委員会から女性がいなくなる。自分は器じゃないと思ったんですけれど、ロールモデルとして、周りが支えてくれることを信じてやろうと引き受けました。それで三年間過ぎたんですよね。生徒たちの自主性とか、それから教育相談も色々あるので、いい子ちゃんじゃなきゃダメだみたいなそういうふうに思っている子に違うメッセージを届けたいっていう思いでやってきました。去年の末に校長から生徒指導主事をやってくれないかと言われ「再任用の人は給料も下がるので主事主任にはしないと自分が県教委にいた時に言っていたのに、校長になったらそれをするというのは非常にポリシーに反するんだ」とは言っていたんですけれども、色んな事情から私がやりますってことでお引き受けしました。

私が組合に入ったのは、夫の影響というのもあるんですけれど、叔母が中学校の教員で「自分はもう子供は育てちゃったから育休産休はないけれども、次の若い人たちのためによりよい条件にしたいと思って交渉の応援に行った」という話を聞いたんですよね。今の自分が持っている権利は、そういう人たちの積み重ねであるんだなというふうに思ったので、恩返しという気持ちで組合に入りました。今もここに立っているというのが本当にありがたいと思っています。最後に歌を歌って終わりたいと思います。『坂の上の雲』というドラマの主題歌で「スタンドアローン」という歌です。

（春山先生、ブラボーでした）

２０２２年度末退職組合員
（敬称略）

春山　貴子（前　女）
春山　宜紀（前　東）
田口　有理（清　陵）
高橋　知子（前　西）
澁谷　正晴（前高特）
多賀谷弘孝（清　明）
小林　重一（桐　工）
深井　宣男（新田暁）
野村　彰彦（太フレ）
西山　晃弘（利根実）

大変お世話になりました